

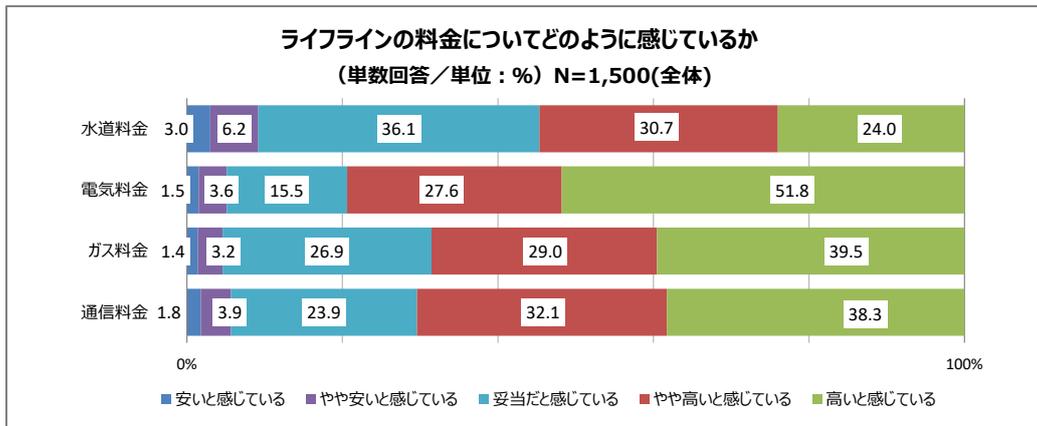
## 水と生活・文化

昨今、さまざまなものの値上げが相次ぐ中で、水道や電気をはじめとした日常生活に不可欠なライフラインの料金について、生活者はどのように感じているのでしょうか。今回、このような状況下だからこその新たな試みとして、これらの料金の妥当性を問う趣旨の調査を実施しました。

### Q. ライフラインの料金についてどのように感じているか？（それぞれ5択）

#### ◇3人に1人以上が水道料金は「妥当だと感じている」

水道、電気、ガス、通信の各料金について、現在どのように感じているかを「安い」「やや安い」「妥当」「やや高い」「高い」の5択でそれぞれ聞いたところ、どのライフラインも「安いと感じている人」（「安い」+「やや安い」）は1割に満たず、「高いと感じている人」（「高い」+「やや高い」）は電気料金の79.4%を筆頭に、通信料金70.4%、ガス料金68.5%、最も少なかった水道料金でも54.7%と過半数を超えました。ただ、水道料金は「妥当だと感じている」（36.1%）が4つのライフラインの中で最も高かったことに加え、唯一、「妥当」が「高い」（24.0%）と「やや高い」（30.7%）を上回りました。前述の「水道水について不満を感じていること」（11頁）では、「水道料金が高い」が不満のトップにあげられましたが、他との相対的な評価における不満度は低いようです。



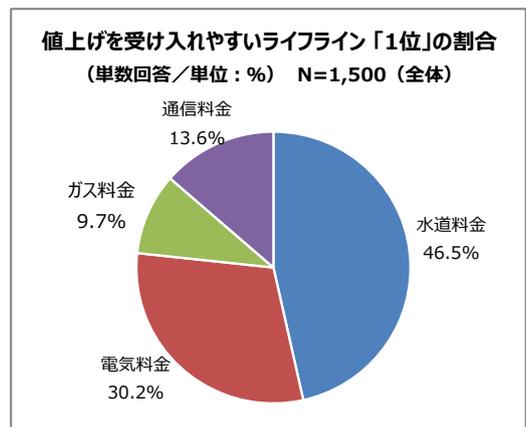
### Q. 料金の値上げを受け入れやすいライフラインは？（項目ごとに順位を選択）

#### ◇値上げを最も許容できるのは「水道料金」

##### 最も許容できないのは「通信料金」

ライフライン料金の値上げに対する許容度を探るべく、水道、電気、ガス、通信の各料金について、「今後も安定的なサービスによる快適な暮らしを手に入れるために、値上げを受け入れやすいのはどれか」をたずね、それぞれに1位～4位の順位をつけてもらったところ、「1位」の割合が最も多かったのは「水道料金」（46.5%）で、2位「電気料金」（30.2%）、3位「通信料金」（13.6%）、4位「ガス料金」（9.7%）となりました。ちなみに、「4位(最下位)」の割合は「通信料金」が59.9%で最も多く、「水道料金」は最も少ない11.3%でした。

昨年実施した日々の生活の中で無いと困るものについての調査では、「電気」が断然のトップでしたが、料金の値上げに対して寛容なのは「水道」であることが、今回の調査で明らかになりました。



#### 値上げを許容できるランキング

1位	水道料金	46.5%
2位	電気料金	30.2%
3位	通信料金	13.6%
4位	ガス料金	9.7%

※「1位」の回答率順位

#### 値上げを許容できないランキング

1位	通信料金	59.9%
2位	電気料金	14.5%
3位	ガス料金	14.2%
4位	水道料金	11.3%

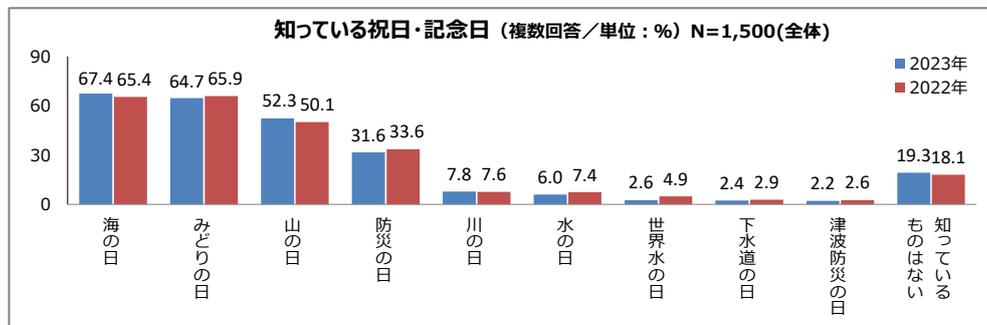
※「4位」の回答率順位

## Q.知っている祝日・記念日は？（9択+知っているものはない）

◇「水の日」の認知率は6.0%で過去最高の更新ならず

水や自然にかかわる祝日・記念日の認知は、「水の日（8月1日）」の認知率が一昨年4.7%、昨年7.4%と2年連続で過去最高値を更新していましたが、今年は1.4ポイント減の6.0%となり、3年連続の過去最高値更新とはなりません。また、「世界水の日（3月22日）」（2.6%）や「下水道の日（9月10日）」（2.4%）の認知率についても同様に低下しました。

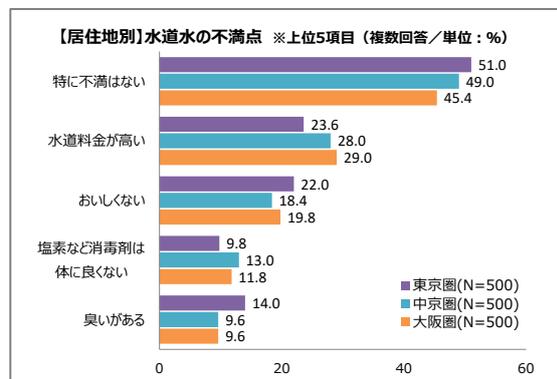
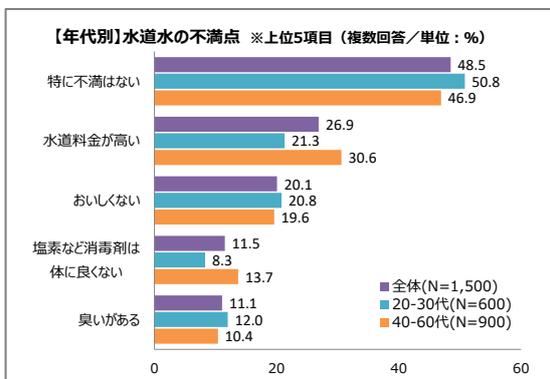
ミツカン水の文化センターでは、今後より一層「水の文化」に関する普及・啓発への取り組みを推進し、その取り組みが、こうした水にかかわる記念日などの認知向上の一助になることを願っています。



## 沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ③

### 【水道料金】

水道への不満があるとしたら例年「水道料金が高い」が筆頭であり、若者(21.3%)に比べてシニア層(30.6%)のそれなりの割合が不満を表明している。東京圏(23.6%)に比べて中京圏(28.0%)や大阪圏(29.0%)の方がやや料金への不満の割合が高いが、料金的には県単位ではどこも月20m<sup>3</sup>使用で約2400-2700円程度と大差はなく、むしろ他の物価や賃金水準の差が影響している可能性がある。



水道への不満について、実は「特に不満はない」が全体で48.5%を占め最も多く、強いて不満点をあげるとしたら水道料金をもっと安くすればそれにこしたことはない、という評価ではないかと推察される。

実際、水道料金の妥当性(13頁参照)については妥当だと感じている人が36.1%で、「高い(24.0%)」や「やや高い(30.7%)」を合わせてもようやく半数を超えるくらいである。これは、高いと感じている人が電気料金(51.8%)やガス料金(39.5%)、通信料金(38.3%)に比べて圧倒的に少なく、また、許容できる値上げの順位付けで全体の46.5%の人が水道料金の値上げを一番にあげていて、電気料金(30.2%)や通信料金(13.6%)、ガス料金(9.7%)を引き離して断トツの支持を得ており、値上げを許容できるライフライン料金の最下位(4位)に評価した人が水道は11.3%で、ガス(14.2%)、電気(14.5%)、通信(59.9%)に比べてもそんなに嫌がられてはいないことからわかる。

ただ、これは水道が支持されているから、というよりは単に安いせいもあるかもしれない。2023年4月分の総務省統計局の家計調査報告によると、2人以上世帯で電気代が月額13,617円、通信費用11,373円、ガス代6,796円に対し上下水道料金が4,908円と、下水料金を加えても水代の負担が一番少ないのである。ちなみに、お茶やコーヒー・ココア、他の飲料を含んだ飲料は約5,146円で、上下水道料金よりも多い金額を平均的には支払っていることになる。

人口密度が高く効率的な都市部で大規模に水供給を担っている一部は良いとしても、全国に約1,300ある水道事業体の1/3は原価割れで給水する赤字経営となっており、適切な料金体系への修正は、安全で安心な水を安定して持続可能に供給するためには不可欠である。公共料金は安ければ安いほど良いというわけではなく、適切なサービスレベルを維持するためにも、ぜひ各事業体の関係者は、本調査結果に勇気を得て料金見直しを検討されてはどうか。